



GRAN RETROSPECTIVA DE CINE MEXICANO

メキシコ映画の大回顧

2025 1.7 [火]—2.9 [日] 会期中の
休館日
月曜日 国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU [2階]

定員=310名(各回入替制・全席指定席) | 各回の開映後の入場はできません。

主催：国立映画アーカイブ、メキシコ国立自治大学(UNAM)フィルモテカ、メキシコ・シネテカ・ナショナル、メキシコ映画機構(IMCINE)

協力：在日メキシコ大使館、インスティトゥート・セルバンテス東京

メキシコ映画の大回顧
Gran Retrospectiva de Cine Mexicano

1896年8月14日にリュミエール社の技師によって初めて映画が上映されたメキシコは、社会・文化・政治的背景を色濃く反映させながら独自の豊穡な映画文化を発展させてきました。1910年から約7年間におよぶメキシコ革命によって、映画産業の発展に遅れが生じながらも、セルゲイ・M・エイゼンシュテインが『メキシコ万歳』の制作のために訪れた1930年以降、ルイス・ブニエールをはじめ、欧州から亡命してきた多くの映画人を受け入れて、メキシコ映画は次第に成熟していきます。

第二次世界大戦によって隣接する映画大国・米国が戦時体制に移行する中、1940年代に政治、経済的な安定期に入ったメキシコの映画産業は黄金期を迎えます。メロドラマ、コメディ、ミュージカル、ホラー映画だけでなく、農場を舞台にしたランチョ映画やキャバレーを舞台にしたルンベラ映画など独自のジャンルを次々と生み出しました。また、エミリオ・フェルナンデス、ロベルト・ガバルドン、フリオ・ブラチョら名匠たち、ドロレス・デル・リオ、マリア・フェリックス、ペドロ・アルメンダリス、ペドロ・インファンテら多くのスター俳優、撮影のガブリエル・フィゲロアら才能あふれる技術陣に支えられ百花繚乱をきわめます。

しかし、戦後のTVの台頭など外的変化の影響を受けて、次第に同国の映画は保守化、硬直化していきます。一方で1960年代にはこうした状況に危機感をおぼえた若手製作者たちが新しい潮流「ヌエボ・シネ」を牽引していきます。その流れと共鳴しながら、1960年にはメキシコ国立自治大学(UNAM)フィルモテカが創立され、1974年には国立の映画保存機関、メキシコ・シネテカ・ナショナル(CN)が設立されるなど、映画文化を保護する機運が高まりました。また、1983年にはメキシコ映画機構(IMCINE)が設立され、同機構を通じて政府が映画製作を支援し、1990年代からは今日に続く新しい世代の監督たちによる世界的躍進が始まります。

本共催企画は、メキシコ無声映画期の代表作『灰色の自動車』(1919)から、巨匠監督、スター俳優たちが活躍した黄金期の名作、「ヌエボ・シネ」以降に頭角を現した監督たちによる1980年代までの話題作を、UNAMフィルモテカ、CN、IMCINEの所蔵作品を中心に29プログラム(35作品)にまとめて回顧します。3機関との共催によって実現した、様々な監督・俳優・ジャンル・時代などバラエティに富んだ上映作品を通じて、メキシコ映画の深淵なる世界と出会う絶好の機会となるでしょう。みなさまのご来場をお待ち申し上げます。

- ◎＝監督・演出 ◎＝原作・原案 脚＝脚本・脚色
◎＝撮影 ◎＝美術 ◎＝音楽 出＝出演
◎＝解説・ナレーション
■すべての作品に日本語字幕が付いています。
■上映分数は当日のものと多少異なることがあります。
■★印の回は講演等のイベントがございます。

観客のみなさまへ

国立映画アーカイブで開催される本特集にあわせ、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。数年前、私は日墨両国において全く異なる道をたどりながらも、同じような情熱を持って映画を製作している人々がいると知り、日本映画の歴史に興味を持つようになりました。本特集で上映される作品は、メキシコ映画が長い歴史の中で成し遂げてきた到達点を忠実に反映しています。メキシコという巨大な国家を映し出し、世界に自らを開いている作品群は、日本の観客のみなさまにも、きっと評価していただけるものと確信しています。

ウーゴ・ビリヤ
メキシコ国立自治大学(UNAM)フィルモテカ ディレクター

1 1/15(木)13:00 2/1(土)12:00

灰色の自動車

(222分・DCP・無声・染色／白黒)

El automóvil gris

メキシコ革命(1910-17)の動乱期、軍人に変装したギャング団「灰色の自動車」がブルジョアの邸宅を襲い、卑劣な犯行を繰り返していた。カブレラ警視(本人出演)の活躍で彼らは逮捕されるが、処刑の場面には当時の記録映像が使用されている。ルイ・フィヤードの連続活劇を思わせるメキシコの無声映画期を代表する一篇で、初公開時には12本の連続映画として上映された。2012-15年にCNがデジタル修復し、伴奏音楽を収録した222分版を上映。

1919(アステカ・フィルムス＝ロサス・イ・コンパニア)◎◎◎エンリケ・ロサス、フアン・カナルス・デ・オメス◎◎◎ホアキン・コス◎◎フアン・マヌエル・カブレラ◎ミゲル・ネコエチエラ◎フアン・デ・ホムス、マヌエル・デ・ロス・リオス

途中に約10分間の休憩時間を設けます。

2 1/10(金)15:00 1/18(土)17:00★

港の女(76分・DCP・白黒)

La mujer del puerto

父の死と恋人の浮気によって絶望の淵に追いやられた田舎娘ロザリオ(バルマ)は、娼婦となり生き別れの兄を探すのだが…。メキシコ映画のトーキー時代における最初の「国民的映画」とも評される作品。監督のアルカディ・ポイトレル(1895-1965)はエイゼンシュテインによる1930年の『メキシコ万歳』の撮影に参加して以来、ロシア出身でありながら、メキシコ映画産業の発展に尽力した。

1934(エウリウダ・フィルムス)◎アルカディ・ポイトレル、ラファエル・セビリヤ ◎ギイ・ド・モーバッサン◎カルロス・デ・ナヘラ◎アレックス・フィリップス◎フェルナンド・リベロ◎マックス・ウルバン◎アンドレア・バルマ、ドミンゴ・ソレル、エステラ・インダ

★印の回は上映後に新谷和輝氏(ラテンアメリカ映画研究者)による講演(約40分)があります。

3 1/12(日)12:00★ 1/23(木)15:00 2/4(火)15:00

パンチョ・ビリヤと進め

(88分・DCP・白黒)

¡Vámonos con Pancho Villa!

黄金期の巨匠、フェルナンド・デ・フェンテス(1894-1958)の「メキシコ革命3部作」の最終作で、メキシコ革命で大統領の独裁に立ち向かった英雄パンチョ・ビリヤを描いた一大叙事詩。だが本作ではビリヤの下で戦ったティブルシオ(フラウスト)を主人公に据え、ビリヤが率いた革命への幻滅を描いている。そのため莫大な資金を投じながら興行的に惨敗したが、現在はメキシコ映画史に残る傑作と評されている。

1936(クラサ)◎◎◎フェルナンド・デ・フェンテス◎ラファエル・ムニョス◎ハビエル・ビリャウルティア◎ジャック・ドレイパー、ガブリエル・フィゲロア◎アントニオ・ルイス、マリア・ロドリゲス◎シルベスト・レペルタス◎アントニオ・フラウスト、ドミンゴ・ソレル、マヌエル・タメス

★印の回は上映後にウーゴ・ビリヤ氏(UNAMフィルモテカディレクター)による講演(約60分、逐次通訳付き)があります。

4 1/23(木)19:00 1/25(土)13:00

ランチョ・グランデへ急げ

(98分・35mm・白黒)

Allá en el Rancho Grande

メキシコ映画の黄金期を切り拓いたとされる「ランチョ(農場)映画」の先駆けとなった大ヒット喜劇。幼馴染であるグランデ農園の経営者フェリペ(カルドナ)、職長のホセ(ギザール)、農民の娘クルス(フェルナンデス)の3人の成長と友情にオペラ歌手であるティト・ギザールの歌声を交え、牧歌的に描く。このジャンルが流行した背景には農場主から土地所有権を奪うという当時の政府の革新的農業政策に対抗する保守層の強い支持があったといわれる。

1936(ブスタマンテ・イ・デ・フエンテス)◎◎◎フェルナンド・デ・フェンテス◎ルイス・グスマン・デ・アウレリヤ◎◎◎グス・アギラ◎ガブリエル・フィゲロア◎ホルヘ・フェルナンデス◎◎◎ロレンソ・バルセラタ◎ティト・ギザール、レネ・カルドナ、エステル・フェルナンデス

5 1/8(木)15:00 1/21(火)19:00

誰の女でもない(82分・DCP・白黒)

La mujer de nadie

ジャーナリストから俳優に転向したアデラ・セケリョ(1901-92)が製作、脚本、主演を兼ねた初監督作。継父から暴力を受けていたアナ・マリア(セケリョ)は家を脱出し、ボヘミア的な共同生活を送る3人のアーティストに保護されるが、やがて彼らの関係は複雑な恋物語へと発展する。「ランチョ映画」が多く製作されていた時代背景の中、保守的な家族規範や女性像に異を唱えた革新的なプロットが際立っている。長年失われたと思われていた本作は、UNAMフィルモテカの復元によって蘇った。

1937(プロドックシオネス・カロラ)◎◎◎◎アデラ・セケリョ◎アレックス・フィリップス◎ホセ・ロドリゲス・グラナダ◎アルマンド・ロサレス◎マリオ・テノリオ、ホセ・エドゥアルド・ベレス

6 1/14(火)15:00★ 1/17(金)19:00

次の夜明けに(107分・DCP・白黒)

Distinto amanecer

メキシコ映画黄金期の初期を飾るフィルム・ノワールで、生涯に40本以上の長篇を手がけたフリオ・ブラチョ(1909-78)の代表作。落ちぶれた作家(ガラン)と結婚生活を送る女(バルマ)が、黒眼鏡をかけた怪しい男に追われる労働組合員(アルメンダリス)との再会に胸を踊らせる。学生時代の元恋人を助きたい一心で、彼女はメキシコシティの裏社会に足を踏み入れるが…。洗練されたフレーミングと陰影に富むガブリエル・フィゲロアの撮影を得て、アンドレア・バルマはこの時代の大スターとしての地位を築き上げた。

1943(フィルムス・ムンディアレス)◎◎◎フリオ・ブラチョ◎マックス・アウブ◎◎ハビエル・ビリャウルティア◎ガブリエル・フィゲロア◎ホルヘ・フェルナンデス◎ラウル・ラピスタ◎アンドレア・バルマ、ペドロ・アルメンダリス、アルベルト・ガラン

★印の回は上映前にクラウド・ソフィア・アレバロ・ガリャルド氏(CNコレクション マネージャー)による解説(約10分、逐次通訳付き)があります。

7 1/14(火)19:00★ 1/19(日)16:00

マリア・カンデラリア(102分・DCP・白黒)

María Candelaria

貧しいインディオの娘、マリア・カンデラリア(デル・リオ)が辿った悲劇の運命を、彼女の美しさに魅了された画家(ガラン)が回想する。メキシコ映画黄金期を代表する監督のエミリオ・フェルナンデス(1904-86)は、ハリウッドでサム・ペキンパー監督作品を筆頭に存在感を発揮したメキシコ人俳優としても名高い。一方で、ドロレス・デル・リオは1943年にハリウッドからメキシコに拠点を移し、ラテンアメリカ女性の力強さを体現するキャラクターを演じ続けた。2024年にアカデミー・フィルム・アーカイブ、UNAMフィルモテカ等の協働復元プロジェクトによって復元された版を上映。

1944(フィルムス・ムンディアレス)◎◎◎◎エミリオ・フェルナンデス◎マウリシオ・マグダレナ◎ガブリエル・フィゲロア◎ホルヘ・フェルナンデス◎フランシスコ・ドミンゲス◎ドロレス・デル・リオ、ペドロ・アルメンダリス、アルベルト・ガラン

★印の回は上映前にハイメ・アバリシオ氏(UNAMフィルモテカ 国際調整室長)による解説(約10分、逐次通訳付き)があります。

8
1 / 7(火)15:00
1 / 19(日)13:00★

エナモラーダ

(99分・DCP・白黒)

Enamorada

シェイクスピアの「じゃじゃ馬ならし」をメキシコ革命下の物語へと翻案。革命軍の将軍(アルメンダリス)と貴族の娘(フェリックス)による身分違いの恋が喜劇調で繰り広げられる。名手フィゲロアによる端正な画面の中で、メキシコを代表する華麗なスター俳優たちが輝きを放つ。UCLA映画テレビアーカイブとワールド・シネマ・プロジェクトによって復元された版を上映。

1946(パナメリカン・フィルムス) ㊟㊟エミリオ・フェルナンデス ㊟イニゴ・デ・マルティノ ㊟ガブリエル・フィゲロア ㊟マヌエル・フォンタナリス ㊟エドゥアルド・エルナンデス・モンカダ ㊟マリア・フェリックス、ペドロ・アルメンダリス、フェルナンド・フェルナンデス

★印の回は上映後に星野智幸氏(作家)による講演(約40分)があります。

9
1 / 7(火)19:00
1 / 22(木)15:00

女隊長アングスティアス

(84分・35mm・白黒)

La negra Angustias

革命の闘士の娘として田舎の村に生まれたアングスティアス(マルケス)は、男性主導の革命に異を唱え、貧民を率いて闘争の渦中に身を投じるが、同時に自身のアイデンティティをめぐって苦悩することとなる。マティルデ・ランデタ(1913-99)は、女性がメイクと衣裳以外の役割を与えられることが稀有であったメキシコ映画黄金期において監督、脚本家、製作者として活躍し、抑圧に抗う主体的な女性像を描き出した。

1950(タクマ) ㊟㊟マティルデ・ランデタ ㊟フランシスコ・ロハス・ゴンザレス ㊟ジャック・ドレイバー ㊟ゴンサロ・クリエル ㊟マリア・エレナ・マルケス、アグスティン・イスンサ、エドゥアルド・アロサメナ

10
1 / 18(土)13:00★
1 / 24(金)19:00

忘れられた人々

(84分・DCP・白黒)

Los olvidados

ルイス・ブニュエル(1900-83)がメキシコで撮った3本目の作品。不良少年たちを中心とする貧困層の人々の生きざまを描いて異才の復活を印象づけ、カンヌ国際映画祭監督賞を受賞した。本特集では1996年にUNAMフィルモテカで発見された約3分のエンディング・フッターを併せて上映。この「もう一つのエンディング」は、撮了後にプロデューサーのオスカル・ダンシゲルスの要請により急遽追加撮影が行われたものと推察されるが、結局、完成版には使用されていない。本作の可燃性オリジナルネガは2003年に映画としては世界で2番目にユネスコの《世界の記憶 Memory of the World》に登録された。

1950(ウルトラマール・フィルムス) ㊟㊟㊟ルイス・ブニュエル ㊟ルイス・アルコリサ ㊟ガブリエル・フィゲロア ㊟エドワード・フィッツジェラルド ㊟ロドリフォ・ハフター ㊟エステラ・インダ・ミゲル・インクラン、アルフォンソ・メヒア、ロベルト・コボ

★印の回は上映後に当館研究員による解説(約40分)があります。

11
1 / 15(水)19:00
1 / 30(木)15:00

愛しき人よ!

(87分・DCP・白黒)

¡Ay amor... cómo me has puesto!

粗野なバン配達人(ティンタン)は事故をきっかけに大富豪の娘と恋に落ちるが、困窮な娘の家族は彼を快く思わない。メキシコ映画において、カンティンフランスと並んで重要な喜劇俳優のティンタンは、1930-40年代のメキシコ系アメリカ人によるカウンターカルチャー「パチューコ」を体現する存在として現れ、服装やスラングを駆使してトランスナショナルな魅力を押出した。

1951(ミエール・イ・ブルックス) ㊟㊟ヒルベルト・マルティネス・ソラレス ㊟フアン・ガルシア ㊟エセキエル・カラスコ ㊟ホセ・ロドリゲス ㊟ルイス・エルナンデス・プルトン ㊟ティンタン、レベッカ・イトゥルビダ、マルセロ・チャベスナダ



灰色の自動車

12
1 / 9(木)15:00
1 / 31(金)15:00

制服の処女

(102分・DCP・白黒)

Muchachas de uniforme

ドイツ映画「制服の処女」(1931、レオンティーネ・ザーガン)およびその原作の翻案。16歳で修道女学校に入れられたマヌエラ(ディリアン)。戒律に則った修養に息苦しい日々を送るが、若き教師ルシラ(ロベス)は彼女に読書の愉しみを教え、人生の指針を与えていく。監督のアルフレド・クレベンナ(1914-96)はドイツからの亡命者として独自の視点を加味。

1951(ファマ・フィルムス) ㊟アルフレド・クレベンナ ㊟クリスタ・ウィンスロー ㊟エドモンド・バエス、エゴン・エイス ㊟イグナシオ・トーレス ㊟エドワード・フィッツジェラルド ㊟ラウル・ラビスタ ㊟マルガ・ロベス、アリシア・カロ、ロサウラ・レバエルタス、イラセマ・ディリアン

13
1 / 16(木)15:00
1 / 22(木)19:00

街娼

(98分・DCP・白黒)

Trotacalles

売春婦とブルジョワ家庭の妻という対極的な立場に身を置く姉妹の姿を通して、階級対立や男性社会による女性搾取の問題を描き出したマティルデ・ランデタの代表作。ランデタは「受動的な女性の歴史ではなく、人生において何事かを成し遂げた女性の歴史を作ったかった」と語っており、自ら脚本に手を加えて従来の男性主観的な女性の転落劇とは一線を画す作品に仕上げた。

1951(タクマ) ㊟㊟マティルデ・ランデタ ㊟ホセ・アギラ ㊟ロサリオ・ソラノ ㊟ルイス・モヤ ㊟ゴンサロ・クリエル ㊟ミロスラバ、エルネスト・アロンソ、イサベラ・コロナ、エルダ・ベラルタ

14
1 / 11(土)13:00★
1 / 26(日)13:00

犯罪者の手

(113分・DCP・白黒)

En la palma de tu mano

ロベルト・ガバルドン(1909-86)が手がけた壮大かつユーモアに満ちたメロドラマの傑作。占い師カリン(コルバ)は透視能力者を偽り女性客から金を騙し取る一方、大富豪の未亡人(パルマ)には手の平の上で転がされてしまう。ガバルドンのメロドラマにおいて過剰なまでに高められる情熱は、登場人物に待ちうける試練が大きいほど真実味を帯びてくる。アレックス・フィリップスの洗練されたカメラワークも見どころ。

1951(ミエール・イ・ブルックス) ㊟㊟ロベルト・ガバルドン ㊟ルイス・スポタ ㊟ホセ・レプエルタス ㊟アレックス・フィリップス ㊟フランシスコ・マルコ・チレー ㊟ラウル・ラビスタ ㊟アルトゥーロ・デ・コルドバ、レチシア・パルマ、ラモン・ガイ、カルメン・モンテホ

★印の回は上映後にクラウディア・ソフィア・アレバロ・ガリャルド氏(CNコレクション マネージャー)による講演(約60分、逐次通訳付き)があります。

15
1 / 17(金)15:00
2 / 1(土)18:00

官能

(96分・DCP・白黒)

Sensualidad

ダンサーのアウロラ(セビーリャ)は出所後に自分を裁いた判事と偶然出会い、復讐のために近づくが…。メキシコ映画黄金期の人気ジャンルである「ルンベール映画」の巨匠アルベルト・ゴウト(1913-66)の作品。ルンベール映画はハリウッドのフィルム・ノワールに社会批評的観点を付加したようなジャンルの特徴を有し、その主役は社会的規範を転覆する迫力を備えた官能的な女性ダンサーであった。

1951(プロドゥクシオネス・カルデロン) ㊟㊟アルベルト・ゴウト ㊟アルバロ・クストディオ、㊟アレックス・フィリップス ㊟マヌエル・フォンタナリス ㊟アントニオ・ディアス・コンデ ㊟ニノン・セビーリャ、フェルナンド・ソレール、ドミンゴ・ソレール、アンドレア・パルマ

16
1 / 16(木)19:00
1 / 29(水)15:00

あぶない二人

(110分・DCP・白黒)

Dos tipos de cuidado

親友同士の農場主ホルへとペドロ。ホルへはロサリオに、ペドロはホルへの妹マリアに恋している。だが仕事で街を離れたホルへが1年後に戻ると、ペドロはロサリオと結婚し娘までもうけていた…。ともに50年代メキシコ映画の国際派俳優であり人気歌手だったホルへ・ネグレテとペドロ・インファンテの華やかな共演で描く「ランチョ映画」の痛快作。監督はのちの三船敏郎主演「価値ある男」(1961)でアカデミー外国語映画賞ノミネートのイスマエル・ロドリゲス(1917-2004)。

1953(シネマトグラフィカ・テレ・ボス=シネマトグラフィカ・アトランティダ) ㊟㊟イスマエル・ロドリゲス ㊟カルロス・オレリヤナ ㊟ナチョ・トーレス ㊟ホセ・ロドリゲス ㊟マヌエル・エスベロン ㊟ホルへ・ネグレテ、ペドロ・インファンテ、カルメル・ゴンサレス

17
2 / 2(日)16:00
2 / 7(金)19:00

不法移民

(116分・DCP・白黒)

Espaldas mojadas

第二次世界大戦後、米国に不法入国したメキシコ人労働者の搾取と孤独な生活環境を描いた社会派メロドラマ。ラファエル(シルバ)は国境警備隊の目から逃れて仕事に就くが、未知の土地で様々な困難に遭遇する。しかしメキシコ系アメリカ人のマウラ(バルデス)と出会うことで、自らのアイデンティティを徐々に取り戻してゆく。在米メキシコ人が直面する問題を取り上げた最初の映画であるが、メキシコ政府は米国の反応を恐れて、公開を2年遅らせた。

1955(アタ・フィルムス=アトラス・フィルムス) ㊟㊟㊟アレハンドロ・ガリンド ㊟ロサリオ・ソラノ ㊟エドワード・フィッツジェラルド ㊟ホルヘ・ベレス ㊟ダビド・シルバ、ビクトル・パーラ、マルタ・バルデス

18
1 / 12(日)15:30★
1 / 26(日)16:00

マカリオ

(91分・DCP・白黒)

Macario

ロベルト・ガバルドン監督の異色作。メキシコ植民地時代、一家が飢餓の危機に瀕し、絶食を宣言した家長のマカリオ。心配した妻は七面鳥を盗んでマカリオに渡すが、その後、マカリオの前に3人の使者(紳士を装った悪魔、老いた神、農民を装った死神)が現れて彼を次々に誘惑する。生と死の狭間で展開する想像力に満ちた物語をフィゲロアの撮影が見事に視覚化。メキシコ映画として初めてアカデミー賞で外国語映画賞にノミネートされた。2023年にテレビサ財団とワールド・シネマ・プロジェクトによって復元された版を上映。

1959(クラサ) ㊟㊟ロベルト・ガバルドン ㊟ブルーノ・トラヴェン ㊟エミリオ・カルバリド ㊟ガブリエル・フィゲロア ㊟マヌエル・フォンタナリス ㊟ラウル・ラビスタ ㊟イグナシオ・ロベス・タルソ、ビナ・ベリセール、エンリケ・ルセロ

★印の回は上映後にハイメ・アバリシオ氏(UNAMフィルモテカ 国際調整室長)による講演(約60分、逐次通訳付き)があります。

19
1 / 29(水)19:30
2 / 8(土)13:00

死後の世界の謎

(82分・DCP・白黒)

Misterios de ultratumba

1940年代からミュージカルやアクションなど娯楽映画を量産し、『獣人ゴリラ男』(1956)のヒット以降は恐怖映画を数多く手がけたフェルナンド・メンデス(1908-66)の監督作。死後の世界を探索する医師が亡くなった友人に冥界を見る機会を与えられるが、それには予期せぬ代償が伴うのだった。ケレンの利いた演出や荘厳な美術など見ごたえあるゴシック・ホラーで、米国ではグランドハウス映画として配給された。

1959(アラメタ・フィルムス) ㊟フェルナンド・メンデス ㊟ラモン・オボ、㊟ビクトル・エレラ ㊟ギンター・ゲルツォ ㊟グスタボ・カリオン ㊟ガストン・サントス、ラファエル・ベルTRAN、マビタ・コルテス

20
1 / 30(木)19:30
2 / 8(土)16:00

魔女の鏡

(75分・DCP・白黒)

El espejo de la bruja

愛人と暮らすために妻を殺した医師。その男の家で働く家政婦サラ(コ罗纳)の正体は魔女だった。妻の復讐を叶えるべく、サラは墓に眠る妻の亡骸を魔術で蘇らせる。『顔のない眼』(1960、ジョルジュ・フランジュ)を想起させる物語と特殊メイクでありながら、魔術が使われるシーンの妖美さや、光学処理の巧みさの中にメキシコホラー映画の確かな伝統が息づいている。

1960(シネマトグラフィカA.B.S.A.) ㊟チャノ・ウルエタ ㊟アルフレド・ルアノバ、カルロス・タボアダ ㊟ホルヘ・スタール・Jr. ㊟ハビエル・トーレス、トリハ ㊟グスタボ・セサル・カリオン ㊟ロシータ・アレナス、アルマンド・カルボ、イサベラ・コロナ



あぶない二人

21 1/10(金)19:00 2/2(日)13:00

エル・サント対吸血鬼女 (90分・DCP・白黒)

Santo VS. las mujeres vampiro

1950年代以降、メキシコ映画の一大ジャンルとなった「ルチャ・リブレ(プロレス)」もの一本で、国民的ヒーローであるレスラー、エル・サントの映画界での人気をも決定づけたヒット作。200年の眠りから目覚めた吸血美女軍団に狙われる女性を救うべくサントが大奮戦を繰り広げる。監督は『人生の道』(1956)でベルリン国際映画祭監督賞を受賞したアルフォンソ・コ罗纳・ブレイク(1919-99)。

1962(フィルマドーラ・パナメリカーナ)Ⓔアルフォンソ・コ罗纳・ブレイクⒺアントニオ・オレリヤナ、フェルナンド・オセス、ラファエル・ガルシア・トラベシⒺホセ・オルティス・ラモスⒺロベルト・シルバⒺラウル・ラビスタⒺサント、ロレナ・ベラスケス、マリア・ドゥバル

22 1/28(火)19:30 2/6(木)15:00

ルベン・ガメス作品集(計90分)

1965年に「ヌエボ・シネ」の流れを汲み、保守的な映画産業の刷新を問いかけるかたちで始まった「第1回実験映画コンクール」。そこで『秘められた公式』が一位に輝いたルベン・ガメス(1928-2002)の4作品を上映。テキサスなどの酒類の原料として使われる植物が狂乱的にコーージュされた『マゲイ』、ファン・ルルフォのテキストと共に血管にコカ・コーラが注射される映像などを交えながらメキシコのナショナル・アイデンティティについて思索した『秘められた公式』、スモッグに覆われた人口過密のメキシコシティをリズミカルに捉えた都市のポートレート『メキシコ盆地』、過疎化が進む農村、フチテペクの人々を捉えた『囁き』——これらの作品を通じて、ガメスの詩的な映像世界に光をあてる。

マゲイ(10分・DCP・白黒)

Magueyes

1962(グスタボ・アラトリステ)Ⓔルベン・ガメス

秘められた公式(43分・DCP・白黒)

La fórmula secreta

1965(サルバドル・ロベス・O)ⒺⒺⒺルベン・ガメスⒺファン・ルルフォⒺサルバドル・ロベスⒺⒺホセ・カスティージョ、ホセ・ティラルド、ピラール・イスラス

メキシコ盆地(15分・DCP・カラー)

Valle de México

1976(バンコ・ナショナル・シネマトグラフィコ=短篇映画製作センター)Ⓔルベン・ガメス

囁き(22分・DCP・カラー)

Los murmullos

1976(バンコ・ナショナル・シネマトグラフィコ=短篇映画製作センター)ⒺⒺⒺルベン・ガメスⒺギー・ダンヴェールⒺルイス・ガイタン

23 1/9(木)19:00 2/5(水)15:00

ロス・カイファネス(102分・DCP・カラー)

Los caifanes

上流階級のカップルが偶然知り合った4人の無軌道な男たち(ロス・カイファネス)とともにめくるめく夜のメキシコシティに繰り出していく。ファン・イバニェス(1938-2000)の長篇第1作で、1960年代を代表するメキシコ映画のひとつ。ナイトクラブ、タコス屋台、ディアナの噴水、葬儀場などを移動しながら狂騒と滑稽と哀感が同居する一夜の冒険を通して、都市の階級格差とその同様のカタルシスが鮮やかに描かれる。

1966(エストウディオス・アメリカ=シネマトグラフィカ・マルテ)ⒺⒺファン・イバニェスⒺフェルナンド・コリンⒺベドロ・ガルシア・エスピノサⒺマリアノ・バリエステ、フェルナンド・ビルチェスⒺフリッサ、エンリケ・アルバレス・フェリックス、セルヒオ・ヒメネス、オスカル・チャベス

24 1/28(火)15:00 2/4(火)19:00

ジョン・リード 反乱するメキシコ (93分・DCP・カラー)

Reed: México insurgente

「世界を揺るがした10日間」(1919)で知られる米国の若きジャーナリスト、ジョン・リードのメキシコ革命に関する記述をもとにしたポール・レドック(1942-2020)初の長篇劇映画。ヌエボ・シネの担い手の一人であるレドックは、新大陸における前例のない民衆運動に惹かれたリードに共感し、革命に生きる人々の姿をセピア調の映像で繊細に描き出した。2015年にUNAMフィルムotecaがベルギー王立シネマテークの技術協力を得てデジタル修復した版を上映。

1972(オジン・イ・アソシエイツ)ⒺⒺⒺポール・レドックⒺジョン・リードⒺファン・トバル、エミリオ・カルバリドⒺアレクシス・グリバスⒺクラウディオ・オブレゴン、エドゥアルド・ロベス・ロバス、エルネスト・ゴメス・クルス

25 1/21(火)15:00 2/6(木)18:10

女性映画コレクティブ〈Colectivo Cine Mujer〉作品集(計158分)

1975年にメキシコ国立自治大学映画研究センター(CUEC)で学ぶフェミニストや映像作家たちを中心に始まった女性映画コレクティブ(Colectivo Cine Mujer)の作品集。コレクティブによる第1作であるロサ・マルタ・フェルナンデスの『女のこと』では、当時違法とされていた中絶について当事者がつまびらかに語る様子が記録されている。続く『沈黙を破る』ではレイプ被害を題材にし、ベアトリス・ミラによる『台所の悪』では女性の家事労働について、またマリア・デル・カルメン・デ・ララによる『快楽のためではない』ではセックスワーカーへ取材するなど、当時公の場で語ることが難しかった題材を次々と取り上げ議論を呼んだ。

女のこと(45分・DCP・カラー)

Cosas de mujeres

1975(CUEC)ⒺⒺⒺロサ・マルタ・フェルナンデスⒺアルトゥーロ・デ・ラ・ロサ、マリオ・ルナ、ピクトル・ピアラⒺマリオ・ラビスタⒺバトリシア・ルケ、アンヘレス・ネコエチエラ、マルティン・ラサル

台所の悪(24分・DCP・カラー)

Vicios en la cocina

1978(CUEC)ⒺⒺⒺベアトリス・ミラⒺⒺアルトゥーロ・デ・ラ・ロサ、マリオ・ルナⒺダニエル・サントス

沈黙を破る(38分・DCP・カラー)

Rompiendo el silencio

1979(CUEC)ⒺⒺⒺロサ・マルタ・フェルナンデスⒺ女性映画コレクティブ、ロサ・マルタ・フェルナンデスⒺトニ・カーン、マリオ・ルナ、アレハンドロ・ガンボアⒺアリシア・ウエルタⒺハビエル・アイズブーロ、スカール・キロス、リカルド・ホセ・レサマ

快楽のためではない(51分・DCP・白黒)

No es por gusto

1981(CUEC)ⒺⒺⒺマリア・デル・カルメン・デ・ララ、マリア・ウウヘニア・タメスⒺファン・ロベス、ラウラ・ロセッティ、アルホン・モラレスⒺアレハンドロ・ガンボア、ヴィセンテ・ブランシェット

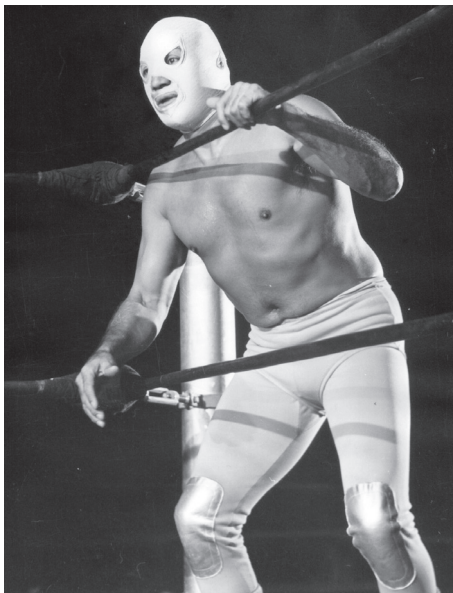
26 2/5(水)19:00 2/9(日)16:00

カノア 恥ずべき事件の記憶 (115分・DCP・カラー)

Canoa: memoria de un hecho vergonzoso

1968年9月14日、プエブラ州カノア村で起きたリンチ事件にホラー映画のような残酷描写を盛り込んだ異色のセミドキュメンタリー。あらゆる悪事に手を染めるカトリックの神父に扇動されたカノア村の住民たちが、登山に向かう大学職員らを共産主義革命家と信じ込み襲撃する。登場人物がカメラに向かって語りかける大胆なスタイルを取り入れて、群衆心理が生み出す暴力に対して警鐘を鳴らしている。

1976(コネシテ・ウノ=映画製作労働者組合[STPC])Ⓔフェリペ・カサルスⒺトマス・ペレス・トウレントⒺアレックス・フィリップス・Jr.Ⓔサルバドル・ロサノ・メナⒺエンリケ・ルセロ、サルバドル・サンチェス、エルネスト・ゴメス・クルス



エル・サント対吸血鬼女

©Claro video

27 1/31(金)19:30 2/9(日)13:00

アルカルダ 鮮血の女修道院 (78分・DCP・カラー)

Alucarda

悪魔に憑かれた娘が修道院を破滅に導いていく。TVディレクターとしてキャリアを開始したファン・ロベス・モクテスマ(1929-95)は、アレハンドロ・ホドロフスキーの『ファンとリス』(1968)、『エル・トボ』(1970)の共同プロデューサーを務めたのち、前衛的な怪奇映画を監督した。なかでも物議を醸したこの作品は、ギレルモ・デル・トロがお気に入りの一作に挙げるなどカルト的なファンを持つ。日本では『鮮血の女修道院 愛欲と情念の呪われた祭壇』のタイトルでソフト化された。

1977(フィルムス75=ユマ・フィルムス)ⒺⒺⒺファン・ロベス・モクテスマⒺアレクシス・アロヨⒺティタ・アロヨ、ヨランダ・ロベス・モクテスマⒺザヴィエル・クルスⒺクレオメネス・スタマティアデスⒺトニー・ゲフェンⒺクラウディオ・ブルック、ダビド・シルバ、ティナ・ロメロ、スサーナ・カミニ

28 1/24(金)15:00 1/25(土)16:00

夜の心臓(108分・DCP・カラー)

El corazón de la noche

謎めいた男と一緒に歩くろうあの娘に一目ぼれした青年はその後を追うが、到着した先は社会から疎外された身体障がい者が集まる秘密結社だった…。1960年代半ば以降に台頭し始めたアルトゥーロ・リプステイン(1943-)、フェリペ・カサルス(1937-2021)等、黄金期の次の世代を代表する監督の一人であるハイメ・ウンベルト・エルモシーリョ(1942-2020)は、同性愛を正面から扱った作品など、伝統的な規範に挑戦する作品を多く手がけた。

1984(コナシネ=エストウディオス・チュルブスコ・アステカ[ECHASA])ⒺⒺⒺハイメ・ウンベルト・エルモシーリョⒺホセ・デ・ラ・コリーナⒺガブリエル・フィゲロアⒺハビエル・ロドリゲスⒺホアキン・グティエレス・エラスⒺベドロ・アルメンダリス・Jr.、ホルヘ・バルサレッティ、マルセラ・カマチョ

29 1/8(水)18:40 1/11(土)17:00★ 2/7(金)15:00

黄金の鶏(131分・DCP・カラー)

El imperio de la fortuna

ガルシア=マルケスと並ぶラテンアメリカ文学の巨星ファン・ルルフォの原案による、名匠リプステインの「宿命3部作」の第1作。極貧の生活を送る主人公が、傷ついて食用にと買った闘鶏を世話し、最強の闘鶏に育てたことから始まっていく栄光と執着、転落の人生を描く。監督の妻で脚本家のバス・アリシア・ガルシアディエゴとの初の共作でもある。アリエル賞(メキシコのアカデミー賞)では最優秀作品賞を受賞した。

1986(IMCINE)Ⓔアルトゥーロ・リプステインⒺファン・ルルフォⒺバス・アリシア・ガルシアディエゴⒺアンヘル・ゴデーⒺアンナ・サンチェス・ヘンナロⒺルシア・アルバレスⒺエルネスト・ゴメス・クルス、ブランカ・ゲーラ、アレハンドロ・パロディ

★印の回は上映後にダニエラ・アラトラー氏(IMCINE機構長)による講演(約60分、逐次通訳付き)があります。



黄金の鶏



パンチョ・ビリャと進め

©FILMOTECA UNAM'S COLLECTION



マリア・カンデラリア

©FILMOTECA UNAM'S COLLECTION



愛しき人よ!

©FILMOTECA UNAM'S COLLECTION



街娼

©FILMOTECA UNAM'S COLLECTION



犯罪者の手



マカリオ

©FILMOTECA UNAM'S COLLECTION



ロス・カイファネス



ジョン・リード 反乱するメキシコ ©FILMOTECA UNAM'S COLLECTION



魔女の鏡

©Alameda Films

展示室(7階)

【企画展】 常設展「NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史」も併設されています。

映画監督 アンジェイ・ワイダ

Film Director Andrzej Wajda

2024年12月10日(火)―2025年3月23日(日)

* 月曜日および12月27日[金]―1月5日[日]は休室

主催: 国立映画アーカイブ

共催: 日本美術技術博物館Manggha、

アダム・ミツケヴィチ・インスティテュート

協力: クラクフ国立美術館、ポーランド広報文化センター

『灰とダイヤモンド』などでポーランドから世界映画に新風を起し、『大理石の男』や『鉄の男』では政治体制にも抗いつつ壮大な物語世界を築いた監督アンジェイ・ワイダ。本国で開催した展示内容に加え、日本との関係を示す独自の章を加えてその作家像をたどります。

開室時間=11:00-18:30(入室は18:00まで)

* 1月31日(金)は閉室時間を20:00まで延長いたします(入室は19:30まで)。

料金(常設展・関連企画共通)=一般250円(200円)/大学生130円(60円)/65歳以上、高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)、国立美術館のキャンパスメンバーズは無料

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、キャンパスメンバーズは入室の際、証明できるものをご提示ください。

* 当館が主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」またはQRコードのプリントアウト)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

* 詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。

▶ チケット購入方法

	一般	65歳以上	高校・大学生	小・中学生・障害者手帳をお持ちの方(付添者1名まで) キャンパスメンバーズ
チケット料金	1,300円	1,100円	700円	500円
オンライン販売	各上映日の3日前正午から各上映回の開映15分前まで			
窓口販売	各上映回の開映1時間前から5分前まで若干数販売			

* 電子チケットは、当館HPより公式チケットサイトにオンライン販売します。

* 料金区分の違うチケットでは入場できません。差額のお支払で観覧することはできません。

* 学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、国立美術館のキャンパスメンバーズは証明できるものをご提示ください。ご提示のない方は入場できません。

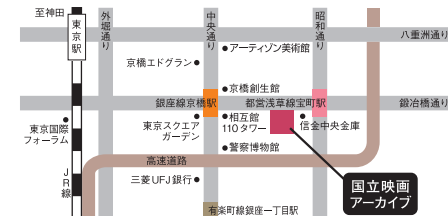
* 未就学児、優待の方は「障害者手帳をお持ちの方または付添者等券」をお求めください。

▶ 入場方法

* 開場は開映30分前です。

* チケットのQRコードをスマホ画面、または印刷紙面でご提示ください。特集名、作品名はチケットに表示されませんので、お間違いないようご注意ください。

* 各回の開映後の入場はできません。予告篇はございません。



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分

都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分

JR東京駅下車八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル 050-5541-8600

ホームページ: www.nfaj.go.jp



国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

メキシコ映画の大回顧

Gran Retrospectiva de Cine Mexicano

1月	7 四		15:00 ⑧ エナモラーダ (99分)	19:00 ⑨ 女隊長アングスティアス (84分)
	8 五		15:00 ⑤ 誰の女でもない (82分)	18:40 ②⑨ 黄金の鷄 (131分)
	9 六		15:00 ⑫ 制服の処女 (102分)	19:00 ②③ ロス・カイファネス (102分)
	10 日		15:00 ② 港の女 (76分)	19:00 ②① エル・サント対吸血鬼女 (90分)
	11 月	13:00 ⑭ 犯罪者の手★ (113分)	17:00 ②⑨ 黄金の鷄★ (131分)	
	12 火	12:00 ③ パンチョ・ビリャと進め★ (88分)	15:30 ⑩ マカリオ★ (91分)	
	14 四		15:00 ⑥ 次の夜明けに★ (107分)	19:00 ⑦ マリア・カンデラリア★ (102分)
	15 五		13:00 ① 灰色の自動車 *途中休憩あり (222分)	19:00 ⑪ 愛しき人よ! (87分)
	16 六		15:00 ⑬ 街娼 (98分)	19:00 ⑩⑥ あぶない二人 (110分)
	17 日		15:00 ⑮ 官能 (96分)	19:00 ⑥ 次の夜明けに (107分)
	18 月	13:00 ⑩ 忘れられた人々★ (84分)	17:00 ② 港の女★ (76分)	
	19 火	13:00 ⑧ エナモラーダ★ (99分)	16:00 ⑦ マリア・カンデラリア (102分)	
	21 四		15:00 ②⑤ 女性映画コレクティブ作品集 (計158分)	19:00 ⑤ 誰の女でもない (82分)
	22 五		15:00 ⑨ 女隊長アングスティアス (84分)	19:00 ⑬ 街娼 (98分)
	23 六		15:00 ③ パンチョ・ビリャと進め (88分)	19:00 ④ ランチョ・グランデへ急げ (98分)
	24 日		15:00 ②⑧ 夜の心臓 (108分)	19:00 ⑩⑩ 忘れられた人々 (84分)
	25 月	13:00 ④ ランチョ・グランデへ急げ (98分)	16:00 ②⑧ 夜の心臓 (108分)	
	26 火	13:00 ⑭ 犯罪者の手 (113分)	16:00 ⑩⑧ マカリオ (91分)	
	28 四		15:00 ②④ ジョン・リード 反乱するメキシコ (93分)	19:30 ②② ルベン・ガメス作品集 (計90分)
	29 五		15:00 ⑩⑥ あぶない二人 (110分)	19:30 ⑩⑨ 死後の世界の謎 (82分)
2月	30 六		15:00 ⑪① 愛しき人よ! (87分)	19:30 ②⑩ 魔女の鏡 (75分)
	31 日		15:00 ⑫② 制服の処女 (102分)	19:30 ②⑦ アルカルダ 鮮血の女修道院 (78分)
	1 月	12:00 ① 灰色の自動車 *途中休憩あり (222分)	18:00 ⑩⑤ 官能 (96分)	
	2 火	13:00 ②① エル・サント対吸血鬼女 (90分)	16:00 ⑩⑦ 不法移民 (116分)	
	4 四		15:00 ③ パンチョ・ビリャと進め (88分)	19:00 ②④ ジョン・リード 反乱するメキシコ (93分)
	5 五		15:00 ②③ ロス・カイファネス (102分)	19:00 ②⑥ カノア 恥すべき事件の記憶 (115分)
	6 六		15:00 ②② ルベン・ガメス作品集 (計90分)	18:10 ②⑤ 女性映画コレクティブ作品集 (計158分)
	7 日		15:00 ②⑨ 黄金の鷄 (131分)	19:00 ⑩⑦ 不法移民 (116分)
	8 月	13:00 ⑩⑨ 死後の世界の謎 (82分)	16:00 ②⑩ 魔女の鏡 (75分)	
	9 火	13:00 ②⑦ アルカルダ 鮮血の女修道院 (78分)	16:00 ②⑥ カノア 恥すべき事件の記憶 (115分)	

■★印の回は講演、解説があります。詳細は作品解説ページをご覧ください。

■各日11:00に開館します。